平成30年度　第3回練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会　会議要約

◆開催日時

平成30年12月26日（水）14時00分～16時00分

◆開催場所

練馬区役所本庁舎19階　1907会議室

◆出席者

1　委員

秋元雄史委員長、青柳正規委員、髙橋幸次委員、江村健二委員、島田紘一呂委員、
関口登美雄委員、江川誠志委員、須藤麻世委員、前田尚子委員、今田裕子委員
小金井靖（地域文化部長、副委員長）、矢尾板克之（施設整備課長）、
近野建一（経済課長）、小沼寛幸（文化･生涯学習課長）、 原田昭二（道路公園課長）

2　事務局

文化・生涯学習課施設計画担当係　山西、渡邉
株式会社　丹青研究所

◆会議意見要約

議事　練馬区立美術館における再整備のコンセプト（たたき台）について

【委員長】

・高い専門性により好奇心を深めていく場、豊かな時間が体験できる場、周辺の商店街や中村橋地域の中でゆるやかに文化的な広がりを持つ場としての美術館を目指す。

【委員】

・現存作家が美術と社会をつなぐ役割を担えるのではないか。現存作家と子どもたちが触れ合えるような場を設けてほしい。

・収蔵庫について、外部倉庫を借りると現状把握や作品移動に労力や費用がかかるため、改善する必要がある。

【委員長】

・収蔵品をより一層活用し、新しい美術館の個性にもしていきたい。

【委員】

・サポーターを活動内容別に募集してはどうか。

【委員長】

・意識の高いサポーターの組織づくりや育成は、親しみやすい美術館を作る上でキーとなるため、仕組みを考えていく必要がある。

【委員】

・区民展の授賞式をもっとオープンにすれば、新しい参加者が増え、区民との接点ができるのではないか。

【委員】

・スタッフがしっかりと研究していなければ美術館として信用されないので、「日本の近現代美術史の調査・研究の活性化」には積極的に取り組んでほしい。なお、限られた人数の中で評価の高い展覧会を開催してきた実績を踏まえて、これまでの取り組みが壊されることのないように展開していただきたい。

【委員長】

・美術館の核となる高い専門性と、誰もが親しみやすい機会の提供との両面が持てれば一番良いと思う。

【委員】

・高齢の利用者も多いそうなので、車いすの貸し出しも含めて対応をお願いしたい。

【委員】

・商店街や駅でも、遠いところからも美術館に来てもらえるよう取り組んでいる。駅や鉄道会社と協力できたら良い。

・大型の電動車いすも入れるような設備や、授乳室やおむつ替えスペースも必要である。

【委員長】

・鉄道事業者との連携には、観光というベクトルも考えていく必要がある。

【委員】

・商店街を通りつつ、傘を差さずに美術館に向かえたり、美術館前にコミュニティバスの停留所が設けられると良い。

【委員】

・徹底的にユニバーサルデザインを実行する。他ではまだ取り組んでいないが、将来的には必ずやらなくてはならないことを、練馬区で取り組むと面白いのではないか。

・ハードとソフトの両面によるユニバーサルデザインという考え方である。

【委員長】

・ユニバーサルデザインという言葉は難しく、そのハードルがいろいろなところで関わってくる。どういう言葉で表現するかは別として、いろいろな属性を持った人たちが楽しむことのできる場を、どのように作るかということだと思う。

【副委員長】

・展覧会の企画にも関わる。

【委員】

・私の思うユニバーサルデザインはシンプル・イズ・ベストである。あれこれ盛り込むのはだめで、誰もが使えるというのは難しい。

【委員長】

・美術館の歴史や伝統を活かしたほうが良い。

・所蔵資料をある種の知的リソースとして解放し、資料のイメージそのものを使い、それに合わせて展示そのものをフレキシブルにしていくなど、所蔵資料をできるだけ死蔵せずに軽やかに使用していくということだと思う。

【委員】

・子どもたちが美術館を身近に感じられるようなソフトが必要だ。

・作家を呼んでワークショップを行うなど特徴を持たせ、それに基づいて機能を検討すると良い。

【委員長】

・一番意識しなければならない利用者は練馬区民であり、ベースにあるのは練馬区の社会教育施設としての美術館だと思う。

以上